

# 前橋育英高校報

発行 前橋育英高等学校  
校報委員 丘町13  
前橋市朝日が丘  
☎027-251-7087

印刷 株式会社ヤマザキ

### 目次

- 〔一面〕
  - あいさつ 理事長/校長
  - 建学の精神
- 〔二面〕
  - 進路について
  - LAN工事
  - 来年度生徒募集
  - 〔三面〕
  - スポーツだより
  - インターハイ(団体)
  - サンカインNOW!!
- 〔四面〕
  - 保護者会だより
  - 会長あいさつ
  - 全P連大会
  - 研修会日程
  - おみやみ
  - 〔五面〕
  - インターハイ・団体入賞者インタビュー
  - 〔六面〕
  - 雄渾(同窓会だより)
  - 竹内先生
  - 親子二代同窓生
- 〔七面〕
  - 私の近況報告 四名
  - 〔八面〕
  - 後援会だより
  - 会長あいさつ
  - 総会開催
  - コラム
  - 広報委員メンバー

## 創立当時をふり返って

理事長 中村有 三



昭和三十八年四月十二日は前橋育英高等学校が開校された日である。あれから三十七年の歳月が流れた。すでに卒業生は一万四千人を超えたのである。第一期生もすでに五十半ばを超えている。立派に社会の中で活躍し、貢献している姿を見たり聞いたりすると実に感無量である。私は当時三十一才であった。日夜を分かたず学校の施設や設備の充実、教育内容の研究に身も心も傾注していた。高校の裏に住宅を建て、朝は五時に起きて緑地帯の除草をしたり、キャンパスを一巡してから朝食をとったあの頃が懐かしい。「文武両道とは何か」これを常に考えていた。

最初は男子のみであったが、三年後に女子を受け入れ、推薦入試の制度を採用したのも最初であった。地域社会の要望を受け入れ、朝日が丘幼稚園を創設したが、幼稚園の教員探しに苦勞をし、遂に養成所として、空いた木造校舎に前橋保育専門学校を設置し、同時に高校に保育科を新設し、五ヶ年一貫教育に手をつけた。後に短大に昇格し昭和六十二年高崎に移転した。

## 高校全入と魅力ある育英作り

学校長 中川 豊 美



最初は男子のみであったが、三年後に女子を受け入れ、推薦入試の制度を採用したのも最初であった。地域社会の要望を受け入れ、朝日が丘幼稚園を創設したが、幼稚園の教員探しに苦勞をし、遂に養成所として、空いた木造校舎に前橋保育専門学校を設置し、同時に高校に保育科を新設し、五ヶ年一貫教育に手をつけた。後に短大に昇格し昭和六十二年高崎に移転した。

九月早々の朝刊で中央教育審議会が、高校進学率が九十七％に達した状況を踏まえ、従来の高校入試で成績が一定レベルに達しない受験生を不合格にする「適格者主義」を改めて、高校を「事実上すべての国民が学べる教育機関」と位置付け、学お意欲や適性があれば、入学を認めるべきだとする、いわゆる「高校全入」の方向性を提言する方針を固め、年内にも答申に盛り込む見通しという報道を目にした。新聞では、各都道府県の高

校入試に影響を与えることは必ず、早ければ来春の入試から、むこの頃である。しかし、教職員や御父兄、学園関係者の御支援によって切り開くしか道はないと考える。

皆様の御支援御協力を切に願うものであります。

全国の「定員内不合格」が大幅に減るであろうという文部省の談話も載せていた。確かに少子化が進行する中でも、「高校入試は各高校、学科の特色を配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性を判定して行う」(昭和五十九年文部省通知)とした従来の「適格者主義」を根拠に全国の公立高校の中には定員を割つても不合格者を出しているが(昨年の統計では全国で十四・二％の学科)、今回の答申案に従えば、意欲ある生徒であれば定員数までは全員入学できることになり、機会均等という意味では誠に結構な話ではある。しかし、その問題点もしっかりと把握する必要がある。

まず、学校を選ばなくてはという条件であるが、現状では生徒が行きたい高校イコール進学校または全国レベルの部活動等がある学校という図式が出来上がっており、そのような高校では定員以上に受験者があつて、その分だけ不合格者がでるといふことになる。逆に特色がない、あるいは実績のない高校へは、受験者が少ない上に不意受験が多いということになり、結果的に中途退学者も多くなつていく。つまり、生徒たちが選ばなくてもよいほど、入学したいと思つている高校が多くなつていく原因がある。

次に意欲ある生徒という条件についてであるが、不本意入学の学校では意欲が沸かないのは当然である。さらには、今日の重要課題となつている高校および大学生の学力低下という観点から捉えたときも、現状のままの高校全入は結果的にマイナ要素となるであろうという不安がある。

以上の問題点を解決する方法は、結局「生徒にとって魅力ある学校」作りにあるということになる。

本校では、今年度より県下に先駆けて学校完全週五日制・二学期制・土曜学校開放という制度改革と、教育目標である生徒の能力と適性の伸長を図り、次への進路に導くための教育実践に取り組んでいるが、その原点は「生徒にとって魅力ある高校」作りにある。生徒のニーズに応え、例えば普通科を理数コース・特進文系コース・進学コースに細分化して、より専門性の高い教育を課して、実績ある体育科や保育科と同様な成果を得るための努力をしている。また、土曜学校開放日における教養講座・特別講習・部活動への選択参加が、生徒一人ひとりの一芸を高める一助となつている。さらに幸いにも、保護者会・同窓会・後援会その他多くの関係機関が、本校の教育実践を全面的に支援する体制を整えてくださつており、「魅力ある育英」作りは着実に進行している。

建学の精神  
直 潔 無 私  
正 純 無 私  
愛  
創立者 中村有 三

# 「しほみ」の感覚と進路

進路指導部長 久保田 和夫



バブル経済がばちんとはじけて、略十年。ぼくたちは現在、「しほみ」の感覚のなかで生きています。それはちょうど、火にかけた餅が膨らみ、出ペンのように膨らんだ部分が、はじけてしほみ、そこにぼつかりと空洞があいている状態に似ている。

有効求人倍率、〇・六二％。企業倒産・リストラ……。右を見ても左を見ても、ぼくたちが眼にする言葉は、あの餅に似た空洞を形容するものばかりだ。高度成長期の空気を浴びたぼくたちに一抹の不安をとまなつて、空洞感が走る。それにひきかえ、あつげらんとした高校生たちの日常風景……

ぼんで「くる時、「一つ一つ違った」顔がぬつと出てくる。かつて高校生の顔は一樣に偏差値で塗られていた、それは膨張期の社会に相応しい尺度であった。そして、現在ピンと張りつめた高度成長の風船が割れて、高校生は「一つ一つ違った」顔を模索する時代に入っている。

企業の雇傭条件にも変化が見られる。自己表現能力に秀でていることが必須となった。この傾向に拍車がかかるのは間違いあるまい、高校生が為すべき事は自ずと明らかである。

## 高校内第一期LAN工事終了!

事務主任 石関 貴博



高校内のLAN(ローカル・エリア・ネットワーク)配線工事が八月末終了しました。

将来の高校内ネットワークの基幹となるものとして行った今回の工事により、校内二十八ヶ所でコンピュータネットワークが使用できる環境となつています。また、今回の工事には専用線によるインターネット接続環境構築も含まれ、同時に行つて

います。

七月末に事前準備・調査を行い、校内配線の為のコア抜き、配管・配線作業、ネットワークセンターの設置作業、スイッチングハブ等機器の接続調整。また、その作業と併行してインターネット接続、ホームページ開設の為のJPNICへの登録申請手続きを行い、インターネットサーバーコンピュータからのインターネット接続環境も整備される予定です。今後の完全なネットワーク運

## 平成12年度生徒募集



### 制度改革の実施

教頭 高田 孝

ここ数年、少子化の波がおし寄せ、平成十二年度には大きな

うねりとなってやってくる。定員を大きく割り込む高校が出てくることは必至である。このような状況の中で、育英高校では生徒層の質の低下を防ぐとともに将来的展望に立って、普通科のクラス減を決定した。

今年度より実施した「完全週五日制」と「二期制」の導入。そして、「土曜日の学校開放」は、生徒達にゆとりと充実した高校生活をエンジョイする絶好の場を与えたことにもなった。在校生徒の評判も極めて良好である。

### 【募集内容】

募集定員は、先述したように普通科が昨年より四十名減となった他は同じである。選抜方法も基本的には昨年と同じであるが、特待生入試の合格発表時に、A・B・Cの合格ランクの下に「一般入試の学力試験免除」を設けることにした。特待生に漏れた多くの受験生が一般入試を再受験してくる。一定の点数を取れた受験生は、学力試験を免除し一般入試の面接のみを受けらるる。受

### 【募集要項(概要)】

- 一、募集定員合計五百二十人
  - 普通科 男女 三百六十人
  - 理数コース 八十人
  - 特進文系コース 八十人
  - 進学コース 二百人
  - 体育科 男子 八十人
  - 体育科 女子 八十人
- 二、試験日程

◎特待生および推薦試験

試験日 特待生 一月十八日

推薦 一月十九日

合格発表 一月二十六日

◎一般試験

試験日 二月一日(学力)

二月二日(面接)

合格発表 二月八日

※詳細は募集要項をご覧ください。



験生の負担を少しでも軽減できればとの配慮でもある。合格者が入学すれば、特待合格者と同じクラス編成の対象となる。

# スポーツの結果

体育科長 中村隆喜

## ◆インターハイ◆

優勝

片平真貴(女子高飛び込み)  
女子飛び込み(学校対抗)

準優勝

男子飛び込み(学校対抗)



『飛びたとう・岩手の空に・夢はせて』をスローガンに高校スポーツの祭典・平成十一年度全国高校総体が八月岩手県で開催された。本校からは十二部七十二名の生徒が県代表として出場した。今年は何と言っても水泳男女の大活躍により、全国に育英の名を尚一層高めた大会であった。各部の成績は次の通り

### 〔水泳〕

飛び込みⅡ女子団体優勝・男子団体準優勝・個人女子高飛び込み優勝片平真貴(2-15)、第7位岸美菜子(2-17)、女子板飛び込み第2位片平真貴(2-15)第6位岸美菜子(2-17)・男

森田行雄・田村治郎(1-1B)  
小池豊和(1-1A)

保子、塩原加奈子(3-1E)  
島田恵子、松田愛子(2-15)  
富沢朋美(2-14)

〔サッカー〕  
三回戦・明石悠嗣、佐藤正美、松下裕樹、茂木一希、伊藤健(3-1A)小林卓也、佐中貴人、茂原岳人、田中光男、堀越克明、伊藤大智(3-1B)山田紀篤(3-12)久保憲史、矢野拓也(3-13)佐藤祐典、小淵良幸(3-15)青木剛、笹本優(2-1B)

〔女子テニス〕  
団体二回戦・塚田美智子(3-19)広瀬満寿美(3-18)

## ◆第54回国体◆

優勝

毒島泰士(少年男子高飛び込み)

〔柔道〕  
100kg超級二回戦・樋口晃(3-1B)

第54回国民体育大会は熊本県において、夏季大会が九月十一日〜十四日に行われ、水泳部がまたもや大活躍、秋季大会が十月二十三日〜二十八日まで同地で開催される。本校からは生徒・OB・教諭含めて7クラブの35人が参加するが選手団の健闘を大いに期待したい。

### 〔自転車〕

4kmチーム出場・福田聡(3-15)黒岩宏達(3-12)小嶋拓郎(3-13)恩田一平(2-1B)諸田靖幸(2-1A)

監督(教諭)  
●サッカーⅡ岩丸史也・明石悠嗣・茂木一希・松下裕樹・佐藤正美(3-1A)茂原岳人・小林卓也・佐中貴人・堀越克明・伊藤大智(3-1B)小淵良幸(3-15)青木剛・笹本優(2-1B)相川進也(1-1B)山田耕介監督(教諭)

### 〔フェンシング〕

個人フルレーン一回戦・桜井俊彦(2-1B)・個人エペ・ベスト16・結城宇基(1-1A)

●水泳Ⅱ少年男子高飛び込み・優勝・板飛び込み第6位・毒島泰士(3-1A)少年女子高飛び込み第5位・片平真貴(2-15)少年男子B四〇〇Mメドレーリレー第7位・月田康之(1-1A)少年女子五〇M自由形出場・深見円(3-1E)

### 〔男子テニス部〕

団体一回戦・竹島覚朗(3-11)竹島郁朗(1-17)牧口浩之(3-11)福田淳(2-14)青木惇史(2-11)・個人ベスト32竹島郁朗(1-17)一回戦・竹島覚朗(3-11)ライト級二回戦・桑原健(3-1A)

●陸上Ⅱ小池豊和(1-1A)森田行雄・田村治郎(1-1B)神田直孝(3-1B)安達友信

### 〔陸上〕

円盤投第10位・神田直孝(3-1B)走幅跳第30位・八種競技、第17位・小泉寛(3-15)一万M予選19位・樺沢知紀(2-1B)四×四〇〇MR予選5位・坂井敬行(3-15)

## 【秋季大会参加者】

〔ボクシング〕  
ライト級二回戦・桑原健(3-1A)

●フェンシングⅡ砂山雄一郎(高商短附教員)睦上裕嗣(群馬ロイヤルホテル)上沢聡(自営)岡田和美(中央大)

## サッカーの近況

今春の全国選手権で国立を沸かせた、本校イレブン。十月三日より全国高校サッカー選手権県予選が開幕され、十一月十三日の決勝戦に向けて日夜練習に明け暮れています。

今年のチームも松下裕樹主将を軸にU18全国選抜メンバーに五人も輩出しており、昨年以上の戦力を擁し全国上位をうかがえる陣容です。これ迄の県内選手権は新人戦・県総体・インターハイを制し、上々のすべり出しをみせていますが、宿敵前商や高経附が立ち上がり予断を許しません。応援宜しくお願います。



## 県高校選手権大会兼全国高校サッカー選手権大会組み合わせ

【時間】  
10/3(1回戦) ①11:00 ②13:00  
10/9(2回戦) ①11:00 ②13:00  
11/6(準決勝) ①11:00 ②13:00  
11/13(決勝) 13:10  
【会場】10/3(日) A=いづみサッカー場(大泉)  
B=沼田市陸上競技場  
C=月夜野町緑地広場  
D=前橋総合運動公園  
E=浜川陸上競技場  
F=藤岡馬川緑地公園  
10/9(土) 県営サッカー場  
11/6(土) 県営サッカー場  
11/13(土) 県営サッカー場

# 保護者会だより

## バザーが広げた輪

保護者会会長 斉藤 隆



日頃保護者会活動に対しまして、多大なるご支援、ご協力を頂戴いたしまして、誠に有り難うございます。また、先般育英祭のおり、保護者会バザーを実施させていただきましたところ、同窓会、後援会を始め、各方面から貴重なお品を頂戴させていただきました。誠に有り難うございました。

お陰様で、成功裡に終了させていただきました。売上は百二十万になろうとする勢いでございました。この間、特に保護者会役員の皆様方におかれましては貴重なお品を頂戴致しました上に、当日までの作業日程にご協力をいただき感謝の念にたえません。保護者会の方々が真剣に会議を開き、作業をしていただいた姿は、子供たちのどこかに印象づけられていると思います。特に模擬店では、生徒の模擬店

に、混じらせていただき、生徒たちとよい交流をはからせていただいたものと確信しております。この交流を通して、ボランティアの大切さの実感、それに伴い子供たちとの会話の場が広がっていくことは、大変素晴らしいことと思われま

## 山紫水明の地 岐阜に集う！

副会長 設楽 時枝



第四十九回全国高等学校PTA連合大会が、八月二十六日

〜二十八日岐阜県で「二十一世紀を目指し、社会の変化に、主体的に対応できる心豊かな若者を育てよう」そのためにPTA活動はどのようにあるべきか」をメインテーマに全国各地から一万余名の会員が岐阜メモリアルセンター(で愛ドーム)に集い盛大に開催されました。開会式は、全国高P連会長の挨拶に始まり有馬文部大臣表彰

いことと思われま

長先生を始め、諸先生にご指導いただき、まさに、生徒、保護者、先生のトライアングルの理想的な輪が出来たと思います。この積み重ねこそが、教育の原点であり、三位一体の姿を形成して続けて行くことが非常に大切だと思われました。バザー当日は総勢百名にも及ばんとする保護者の方々にご協力を頂戴致しましたことに衷心より感謝申し上げますと共に益々の本校のご発展を祈念申し上げます。

## 育英祭バザー報告

副会長 山崎 登

第十六回育英祭が去る七月十七日〜十八日開催され、保護者会が「バザー」と「模擬店」を主催し、前回にも増して盛大に成功裡に終わりましたことを報告申し上げます。この準備の為六月から、本部役員会や、バザー実行委員会を開き集品方法、模擬店の扱い品目、整理作業又役割分担等を決めながら、当日を迎えた次第です。しかし本年度の目標額は百万円を達成しようということで、果たしてこれが達成出来るのか、不安でしたがその心配をよそに多くの入場者が会場に殺到し、押すな押すなの大盛況で、猛暑の中役員も汗だくで対応に終始しました。本日に御協力有り難うございました。過日、反省会を開きましたところ多数のご参加をいただき

き和気あいあいの内に無事に終わりました。重ねて御礼申し上げます。併せて今回のバザーに初めて同窓会・後援会の方々にも呼び掛けたところご協力をいただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。収益金の使途につきましては、直接生徒に還元される方法で活用したいと思っています。

1.育英祭バザー売上明細 (売上780,645)

部門別	売上額	%	備考
園芸・花	51,340円	6.6	鉢物
玩具・学用品	43,650円	5.6	
衣料品	67,250円	8.6	シャツ・スーツ・セーター・スタックス類
日用品	176,210円	22.6	家庭用品類
雑貨・手工芸品	301,430円	38.6	土産類・手作り品
農産物	14,250円	1.8	野菜
食料品	53,800円	6.9	缶詰・調味料他
陶器・ガラス類	72,715円	9.3	陶器・ガラス類
合計	780,645円	100.0	

3.愛の募金 (1,988 + 1,029 = 3,017)

売上合計 1,111,712



2.模擬店売上明細 (売上328,050)

店名	売上金額
やきそば	121,000円
とろろあん・マドレーヌケーキ	42,500円
かき氷	112,200円
ジュース	32,350円
合計	328,050円

●バザー品の集品内訳数 (点数)

区分	園芸	食料品	衣料	日用品	合計	延べ人数
1学年	15	305	138	458	162	
2学年	25	86	35	144	96	
3学年	400	25	168	155	748	107
後援会	13	58	28	99	16	
同窓会		8	20	28	5	
職員		10	20	30	6	
合計	400	76	635	396	1,507	392

## 〈平成11年度PTA関係研修会日程〉

大会名	日程	場所	出席者
県私学父母の会連合会総会	6/1(火)	上毛会館	笹澤前会長・中川校長(2名)
県P連大会総会	6/3(木)～6/4(金)	伊香保ホテル天坊	斉藤隆・野野恵子・山崎登・萩原良明・山本ひろみ・安藤千穂子・石原正樹・鹿沼正典・高田直道・種友事務長 (10名)
関P連大会	7/7(水) 7/8(木)	鴨川市	斉藤隆・山崎登・石原正樹・萩原良明・設楽時枝・水田進一・伊藤美英・大石教訓・櫻井実長 (9名)
全P連大会	8/26(木)～8/28(土)	岐阜市	斉藤隆・野野恵子・萩原良明・設楽時枝・大澤朝雄・福島英人・種友事務長・石岡事務主任 (8名)
第20回関東地区私学父母の会連絡協議会	9/24(金)～9/25(土)	水戸アラザホテル	斉藤隆会長(1名)
中毛地区高等学校PTA指導者研究集会	10/20(水) 13:00～17:00	県生涯学習センター	斉藤隆・萩原良明・山崎登・福井久・野野恵子・石原正樹・木村英英子・岩田京子・伊藤美英・大石教訓 (10名)
県P連指導者研究集会	11/25(木) 10:00～16:00	前橋市民文化会館	
関東私学父母の会(私学振興大会)	12/	日比谷公会堂	

保護者会本部役員会が須田文代様が病気の為去8月8日(土)に亡くなりました。ここに御冥福の意を表します。安らかに眠り下さい。

**保護者会**  
**進学講演会・学年集会**  
日時 10月30日(土)午後2時  
場所 4F視聴覚室  
全学年対象の集会です。ふるって御参加下さい。ご来場をお待ちしております。

# 全国に育英の名を知らしめる

## 岩手インターハイ入賞者インタビュー 熊本国体入賞者インタビュー

平成十一年度全国インターハイは岩手県で開催されましたが、本校からは十二部七十二名選手が県代表として出場し、熱戦を展開したわけですが、本年度も活躍は素晴らしく水泳の高飛び込みにおいて、片平真貴選手が優勝、そして岸美菜子選手の大活躍で学校対抗で初Vの快挙をなすとげました。併せて国体の華々しい活躍も含めて今回はその選手達にスポットを当て生の素顔に迫ると共に本人の喜びの声を取材してみました。

### 水泳部



片平真貴  
(25) 前四中出身

□国体高飛び込み優勝

□国体板飛び込み準優勝

Q、優勝お目出とう!!その瞬間は?

A、ただ嬉しかったの一言です。・・・。(昨年のインターハイでは他の試合が重なりエントリー出来なかった)

Q、飛び込みを始めた動機は?

A、中学一年の時部活の顧問の野村先生の勧めで個人メドレーから転向しました。

Q、育英に進学した理由は?

A、群馬ダイビングクラブと一緒に飛び込みをしていた毒島先輩が、育英の水泳部の良さを教えてくれたからです。

Q、飛び込み競技は減量は関係有る?

A、有ります。飛び込みラインがきれいですと採点も良くなるのでスリムな方が有利です。

Q、家族の協力は?

A、兄と妹が(中二)競泳をしており、その点では共通の理解を示してくれます。私も競技や練習の合間をくぐって塾に通っていますが、母が車の運転をし、送迎してくれます。

Q、試合に臨む時の気持ちは?

A、平常心で臨み持てる力を一杯発揮できる様掛けています。

Q、将来は?

A、大学に進みたい、そして全国を代表する選手になる様努力したい。



岸美菜子  
(27) 群南中出身

□インターハイ高飛び込み7位

□インターハイ板飛び込み6位

片平真貴選手とインターハイの高飛び込みで学校対抗において初Vを達成しました。

Q、この競技を始めたきっかけは?

A、兄が競泳をしていて、勧められたので。

Q、育英に進学した理由は?

A、先輩に毒島選手がいた関係で育英を選びました。

Q、練習は?

A、つらい時もあるけど、楽しい時が多くなってきました。

Q、試合に出る時の心境は?

A、あまり意識しない様普段通りの練習の気持ちで臨んでいます。



毒島泰士  
(3-A) 群南中出身

□インターハイ高飛び込み決勝進出2位

□国体少年男子高飛び込み優勝

Q、優勝お目出とう、インターハイ・熊本国体で大活躍しましたね。そして国体では本県選手団の旗手をつとめました。:

A、光栄です。

Q、飛び込みを始めた動機は?

A、中学一年の秋、顧問の野村先生の勧めで個人メドレーから転向しました。

Q、練習は?

A、つらいけど、最近は楽しくなってきました。

Q、将来について?

A、来年大学に進学し、オリンピック等の国際大会には是非出場したい。



月田康之  
(1-A) 玉村中出身

□熊本国体競泳男子四〇〇Mメドレーリレーで7位入賞

※国体二〇〇M背泳ぎで9位

Q、入賞お目出とう。既に小学低学年から中学にかけて活躍していますが、この競技を始めたきっかけは?

A、兄がスイミングスクールに行っており、兄に勧められました。

Q、育英を選んだ理由は?

A、先輩が在学しており、当時その先輩が育英が良いと言われて特待で入学しました。

Q、トレーニンングはどこで?

A、ナガイスイミングスクール玉村校です。

Q、自主トレーニングは?

A、腹筋・背筋・腕立てスクワット各百回のノルマをやっています。

Q、近い将来群馬県を代表する選手に成長して欲しいと関係者は期待していますが今後の抱負について?

A、国体・インターハイで活躍して是非入賞したい。

### ウェイトリフティング部



鬼形昌通  
(3-B) 前三中出身

□インターハイ69kg級4位

Q、ウェイトリフティングを始めたきっかけは?

A、高校へ進学する時担任の先生から、君は瞬発力や背筋力が優れているので、ウェイトリフティングを勧められそして育英に進学しました。

Q、練習は地道で苦しいと思いますが?

A、練習をしないと結果が出ませんので、毎日黙々と取り組んでいます。

Q、腰痛はつきものだと思いますが、その対策は?

A、デッドリフトというトレーニングで腰を強化しています。

Q、今回の成績について?

A、体調が悪くてケガもしており、四位入賞できたことは自分では健闘したと思っています。

Q、将来について?

A、大学に進学し、国体等で活躍したい。



前橋育英

# 雄渾

同窓会  
だより

同窓会会長 関根映一  
第一期生



同窓会員の皆様には、平素より、母校の発展のため、物心ともに、御尽力を頂き、感謝申し上げます。昨年、育英高校サッカー部が、県大会で優勝し、本年の初頭には、国立競技場で、めざましい活躍を目にし、会員一同喜びで、一杯でありました。さらに、学校行事である卒業式、その後の入学式に参加し感動を与えた立派な式典でありました。又高校総体での優勝祝賀会、インターハイでの活躍、そして猛暑の夏の野球大会での応援、我々同窓会員は総会を契機に微力ではありますが、募金や育英祭でのバザーへの供出等母校に貢献できたことは、喜びにたへません。今や、育英高校は、県内はもとより、全国でも大いに注

目され、多くの同窓会員の誇りでもあります。まもなく21世紀を目前にしており、国際化・情報化・高齢化と呼ばれている中で、これからの日本は、予想しがたい状況を迎える事になると思っています。世界一のスピードで進んでいる高齢化問題あるいは、少子化という問題、雇用問題を始めとする経済の問題等々、課題は沢山あります。現に我々の周囲でも、介護や、リストラなど厳しいものがあります。しかし、希望と勇気をもって、チャレンジし、あらゆる難問を乗り越えていく姿勢が大事であると考えます。これからも会員各位の親交を深め、さらなる御支援とご鞭撻をお願い申し上げます。



## 二つの墓参り

教務部長 竹内英厚



私には年に一回は必ず訪れる墓が二ヶ所所有。

一ヶ所は昭和四十七年本校二年生で、当時世間を騒がせた忌わしい事件の犠牲となったある女生徒の所へだ。

忘れもせぬ、四月二十八日、私が体調を崩し保健室で休んでいると、休み時間に入室してきた彼女は私に気付き、私の顔色を見て「酒・タバコ・夜更しは程々に」などいっはしの説教を「チャイムと共に戻っていった。一年生の時から授業を持ちながらそれが最初で最後の会話となった。普段口数の少ない彼女であったから、何かを訴えていたのかもしれない。

毎年牡丹の花の頃の墓参りである。「しばらくだねー、ごめん、あの時言いたいことを察してやらなくてごめん」と話しかけ、何とも辛い再会である。もう一ヶ所は、恩師であり仲間でもある春山先生のお墓へである。

## ●親子二代同窓生●



第2期生 岩本雅博 (写真業)



第31期生 慎太郎 (大阪芸術大学写真学科)

私は昭和三十九年に入学した二期生です。振り返ると、育英高校は不安な気持ちで門を潜った私を一変させてくれた学校でした。新しい校舎と若い先生方がたくさんおられ、勉強はもとより精神面においても鍛えていただいた三年間だったと記憶しています。

私事ですが、先生方の熱意ある御指導のもと東京写真大学(高崎)から駒沢大学まで高崎線まで一度も休講したことが無く、学校では今でも語り草になっている。そのファイト満々たる姿には常に圧倒された。私が夏と暮にお伺いするのを心待ちにしておられた。顔を見るなり「上げれ」が挨拶であった。

豪快な先生で酒とカツ丼をこよなく愛し、盃を重ねると「カツカツ」と出る高笑い、耳の奥にしっかりとこびりついている。墓参りには缶ビール二本を持参、一本は墓前に、一本は護符としていただく。墓石と世間話や近況報告をし合い、爽快な気分が帰宅する。人は二つの墓参りを物好きと言う。私にとっ

ては人生の使命かもしれない。もう一ヶ所はどうした？古澤先生だ。



第26期生 Jangle Smile 吉田ぬさお

我が母校、前橋育英より同窓会新聞用の原稿依頼があり、

なんとも嬉しいような、照れくさいような気持ちで、筆を取っております。月日が経つのは早いもので、私が卒業してからそろそろ十年が経とうとしております。たまに高校時代の級友に連絡をとってみますと、「結婚した」とか「また一人生まれ」とか「家を建てた」とか。当時の悪童達も、今はもう立派な大人になっている訳であります。



が、レンズを通して一人一人をのぞいて見ると、それぞれ良い顔・良い個性を持っていると感じます。その個性を本人が、いかに気付く事が出来るかは、毎日の学校生活の中から(勉強はもとより、先生方や友達とのコミュニケーションなど)生まれてくるのだと思います。

この二十余年、育英高校は、勉強・スポーツとめざましい発展をしています。これもひとえに校長先生をはじめ、諸先生方の熱意のためものと感謝しております。これからも、私学としての長所を生かし、すばらしい育英高校になります様、今後益々の発展を、息子共々期待致しております。

# 私の近況報告

第十期生 川島タカフミ  
(二科会員)

(アーティスト)



僕の頃の育英は何か自分にとつて、なんでもできる或は、よく勉強した時期でした。その後、東京芸術大学油絵科に入り、社会というか常に周りに絵画が有る環境で四年間を過ごし、卒業後渡仏し、フランスのアンニユイとセンスを体感帰国し、数年日本で制作、出品、個展を繰り返しても何か物足りなく、再び今度はニューヨークに一年間滞在し、生活、制作、売り込み、そしてショーをする事に至りました。

此の様に僕は、自分自身で感じ行動し、自分の普及活動に余念がありません。常に僕は、周

# 十五年を振り返って

第二十期生 小池輝幸  
(伊勢崎郵便局勤務)



りに対し社会に対しても不満を感じて生きています。しかし、文化を伝えてゆく重要性を感じ、自分の作品が内外問わず浸透して行く事を切に願ひ今現在も、そのように努めています。できれば今後、後輩にも自分の作品を観て頂ければ幸いです。何かそういう接点をもって、後輩たちに拘われれば楽しいなと思います。

早いもので私たちが母校をあとにしてから十五年が経ちました。その間に担任としてお世話になった兵頭先生は退職なさり、写真部の顧問だった五百川先生や、生徒会の顧問としてお世話になった古澤先生はすでに鬼籍にお入りになりました。私たちの同級生の間でも樋口勝也さん

が不慮の事故によりお亡くなりになりました。十五年の時の長さを今更ながらに感じています。私は平成二年に郵政省職員として大胡郵便局に採用され、平成十年の四月に伊勢崎郵便局貯金課に異動になり現在に至っています。最近巷でいろいろな方と接していることが母校のことに及ぶことがしばしばありますが、近年の著しい躍進のお陰で、どこへ行っても前橋育英の名前が通用するのを見て大変嬉しく思っています。これもひとえに育英ゆかりのある方々の努力の結果と思ひ感謝しております。これからもますます育英のご発展をお祈りしつつ、私の寄せる言葉と致します。

# 自然の中で子供と一緒に

第十五期生 石倉好美  
(はと保育園勤務)



「お散歩に行くよ。クツがはけるかな。」とまだやっと歩き始めた子ども達がクツの入った

カゴから「アツタ」と言いながら自分のクツを持って来る。「よく見つけたね。」とクツをはかせながら言う、うれしそうにはいて歩いて行く。保育園の生活の中心はお散歩。ヨタヨタ歩きながら「アツ。」とアリを見つたり、だんご虫を見つつかまえようと座りこみ、ずつと指で後を追いつまんでみたりたんぼばやしロツメクサなど見

つけると「きれいなね。」と時計にしてみたり髪に飾ってみたり茎で笛にしたり、自然の中で子どもと一緒に歩いていく。自然の豊かさをしながら散歩していく。年長になると山に登り自然の豊かさ、すばらしさを身体で感じ、キャンプ、川遊び、石探りなどいろいろな事を体験し共感し喜び、感動し合える生活の中で、子どもが本当に豊かに育ち、人間的に大きくなっていく。その生活していく中で仲間として一緒にける保育の仕事が大好きです。

当の本人はと申しますと、この十年を言わば、自分の為だけに費やして参りまして、依然独身、目下花嫁募集中(?)でございます。それはさておき、私は前橋育英卒業後、東京音楽大学に進学し作曲を専攻。現在は「jingle smile」名義で作・編曲の仕事をしております。そんな運と実力と努力の世界に飛び込んで行き、現在の自分があるのは、正にその分岐点となった高校三年間を、前橋育英の先生方から学び、ご指導をいただいたお陰と痛感致しております。普通科進学コースの通称「特別進学クラス」という、聞いただけで明日から勉強するのが嫌になるようなクラスに、三年間席を置いていた私は、受験も大詰めの三年の夏、突然音符も読めないのに、志望大学を普通大学から音楽大学に変え、今までは全く違う勉強を、ひとりで始めてしまうのです。私は小さい頃からピアノを習っていた、という口ではありませんが、ですからその行為は無謀であり、学校、クラスにとっては問題児だった事でしょう。ところが先生方は、私の選んだ道を本人以上に信じ、私や私の親に対して「吉田はこの道で絶対に成功する」とまで言い切ってくれていたのです。そして卒業後一年して、最初のステップ東京音楽大学に入学できたのであります。そんな今は死語になりつつある「情熱」「熱血教師」が、今だそんな私に目を掛けてくれ、支えてくれているのです。「勉強！勉強！」と言いながら、実は「勉強だけじゃない」という事を、我々に教えてくれた。当時、必要以上に熱く、時には涙を浮かべながら、我々に真剣に怒っていた、あの先生達の言葉が今更になって、心に響いてくるのであります。正に十年殺しのお灸を据えられたように感じます。そして最後に私事で非常に恐縮ではありますが、そんな十年の一里塚として当時(高校二年)の作品を、この度世に発表する事ができました。「夏色シネマ」というアルバムの最後に収録されております。ご一聴いただけましたら幸いに存じます。レギュラー番組「のほほん喫茶」FM群馬毎週水曜日21:00~21:30 施設ホームページ「みさおの部屋」 <http://members.aol.com/wisao/jyanshop.htm>

# 後援会だより

## 21世紀を展望しつつ 更なる前進を

前橋育英高等学校  
後援会会長 前田 勇



我が「前橋育英高等学校」は、昭和三十八年開校以来、三十七年間の歴史を重ねました。人間でいえば、青春期を過ぎ一番働き盛りの年代に差し加かっていると言えるでしょう。平成十年度の実績を見ると、学習進歩面では、大学合格者数331名、スポーツ面では、9回目の県総体男子総合優勝を達成しました。中でもサッカーは、全国選手権で堂々の三位となり、「前橋育英」の名を高めてくれました。他の部活も含め、連日の新聞紙上で「前橋育英」の活字を目にしています。文武両道の実を上げつつある今、育英高

等学校後援会としても、全ての部活動への支援、および学校運営の質的向上のため、物心両面にわたり出来る限りのことをしたいと考えています。学校も21世紀を展望して、学科の再編や制度の改革に取り組み、特色のある教育を進めようとしています。二学期制の導入や土曜日の学校開放・特別講座など、まさに生徒の皆さんの自主性を尊重しつつ、人間味のある人間づくりへと、時代を先取りした内容となっています。学校の主人公は、生徒の皆さん一人一人です。充実した環境で、納得した素晴らしい日々と成果を掌中に出出来るよう、後援会としても支援していくつもりです。

(平成十一年十月一日)

## 平成11年度後援会定期総会開催 — 会則の一部改正決まる —

今年度の「前橋育英高等学校後援会」定期総会は、去る七月二日(金)午後五時より、県総体優勝祝賀会に先立ち、前橋市大友町のグランドベルズで開かれました。

総会は歴代の父兄会・保護者会会長始め、多数の理事・役員の方々が出席され開催されました。中村有三理事長のご挨拶と二年目に入られた中川豊美校長から、高校の近況報告があり、引き続き、前田勇後援会会長を議長に議事が進められ、平成十年度の事業や決算、平成十一年度の事業計画と予算案を審議しました。



今年度は特に「役員・会議」に関わる会則の一部改正が提案

され、役員会の中に運営委員制度が設けられたことが大きな特徴となっています。これは、今後の後援会活動を日常的に、円滑に進められるようにという配慮から、一定数の中心的スタッフにその運営に当たっていただくというものです。選出された運営委員は以下の方々です。

押田義一、秋間良憲、田中公正、瀬下元雄、佐伯詔一、狩野義一、田村和彦、星野信次、小池静夫、浅田千秋、笹澤智治、斉藤隆。

(以上敬称略)

また、今年度のクラブ活動への援助金内訳は別表のとおりとなりましたので報告致します。

### 〈クラブ活動費援助金交付一覧〉

クラブ名	金額
1 野球部	¥2,900,000
2 剣道部	¥250,000
3 サッカー部	¥1,100,000
4 フェンシング部	¥200,000
5 陸上部	¥600,000
6 柔道部	¥850,000
7 自転車部	¥100,000
8 ゴルフ部	¥150,000
9 ウエイトリフティング部	¥100,000
10 ラグビー部	¥100,000
11 バスケット部	¥150,000
12 バレー部	¥150,000
13 ボクシング部	¥150,000
14 吹奏楽部	¥300,000
15 (男子) テニス部	¥100,000
16 (女子) ソフトボール部	¥100,000
計	¥7,300,000

**前橋育英高校報  
広報委員メンバー**

保護者会文化委員長 山崎 登  
後援会常任理事 城田博己  
同窓会副会長 吉田幸一  
学園参事 薬名正光  
短大企画広報室長 馬場八郎  
高校教頭 大石紘一  
高校事務次長 根岸豊年

### たかが野球、されど野球

今年の夏は、例年に増して野球が楽しかった。ひとつは、かの松坂大輔君の活躍である。昨年の夏の甲子園での印象も覚め遣らぬままの勢いで、十八歳の少年がプロ野球界のスーパースターとなってしまった。そして、この九月、シドニー・オリンピックに向けてのアジア選手権の大事な初戦で、台湾チーム相手に十三奪三振の快投で勝利投手となってしまう。プロ野球ファンでなくとも、彼のピッチングには何故か惹かれてチャンネルを合わせてしまうようだ。

もうひとつは、言うまでもなく、この夏の甲子園大会で、桐生一高が史上初の優勝旗をこの群馬の地にもつてきたことだ。その勝因については多分析されているところであるが、結果論として「勝敗は時の運」という言葉を耳にする。しかし、私はそうは思わない。甲子園などは一戦一戦のゲームの中で力をつけていくのも事実だが、普段の練習で基礎・基本を確実に体得し、一つ一つのことを真面目に丁寧に、そして情熱的にこなしただで、いざ本番になっても平常心を失わず、実力を十分発揮した結果が松坂君であり、桐生一高の今日の姿と

思う。

要は、普段の生活と練習への姿勢如何なのである。

(S記)